

教えて先生



ママの悩み



Q

抱き癖についてお聞きしたいと思います。生後3ヵ月の子の母親ですが、お姑さんや親戚から「そんなに抱いたら抱き癖がつくよ」と、よく言われます。そもそも、抱き癖ってなんですか？抱いていないと寝てくれないので抱くのですが、癖になるのでしょうか？

A

生後3ヵ月という、少しずつ表情も出はじめて、「笑って」「もかわいい」「あくび」をしてもかわいい、何をしても愛おしいと思える時期ですよね。このかわいくて仕方がないと思う時期に、私もできる限りずっと抱っこして相手をするのを楽しみたいと思っていました。しかし、ママには、オムツを替えたり、洗濯をしたり、掃除をしたり、食事の準備をしたりなど、赤ちゃんに関わっていただくことも、やらなければならないことが山のようであって、そういう訳にはいきませんでした。家事をしている時に泣かれると「あーここまでやっておきたかったのに」と思いながらも、私には専門的に学んだ「発達心理学」の子どもに要求に即応することの大切さ。がいつも心のどこかにありましたから、すぐにでも自分のしている事の手を止めて、娘を抱き上げていました。すると、「質問のママと同じように、(私の)父から「いつもいつも抱いていると抱き癖がつくぞ」と注意を受けていました。私は良いと思っていて、何なの？と、疑問に思い、広辞苑を引いてみました。すると、「いつも抱かなくてあやされてる乳児につく、抱かないと泣きやまない、あるいは眠りつかない習癖」と書いてありました。この説明を解釈すると、「泣きやまない」抱き癖が赤ちゃんにつくと、「泣きやま

ない」「眠りにつかない」「困った状況になる」という意味なのでしょう。しかし、抱き癖がつくと困るのは赤ちゃんではなく、他でもなく、しなければならぬことが沢山あるママの方ではないでしょうか。

そこで、赤ちゃんに視点を当てて考えてみることにしましょう。赤ちゃんは「オムツが濡れて気持ち悪いよ」「お腹がすいたよ」「抱っこして」と泣き声でその要求を表します。その都度、ママがその要求を読み取り応えてあげること、後の人間関係の基礎となる基本的信頼関係が出来ていきます。ママが「オムツが濡れたの？」「お腹がすいたねー」等と赤ちゃんの要求に言葉を交えて応答することがとても大切であると同様に、オムツを替えるときにママがタッチする「皮膚」からの刺激(触覚への刺激)が、心と身体の成長発達にとつて、とても大事なんですね。この肌からの優しい刺激が、赤ちゃんを安定させ、安心させ、人に触られて心地よいという皮膚感覚をも開くのです。

しかし、紙オムツになった現在、昔の布オムツに比べると替える回数もとても少なくなりました。ということは、ママと赤ちゃんが接触する回数もかけられる言葉も減ってしまいます。そのふれあいの機会が少なくなった現代社会の中で、赤ちゃんが満足するまで抱っこして、あやして、語りかけ

るといふ心地よい刺激が沢山あるということは、赤ちゃんにとつても幸せなことではないでしょうか。娘が3ヵ月頃の話ですが、伯母(藤岡)から「そのうち自己主張が始まると憎らしいと思う時期が来るのよね」と言われ、「そんな日は絶対に来るはずがない」と思っておりました。私もできるならずっと抱いていたいと思うほど、かわいくて、かわいくて仕方がなかったのですから。でも必ず人間の成長発達に欠かせない「反抗期」というものがやってきます。その反抗期は、ママに甘えていたけれど自立したいという気持ちの表れですが、本当に言うことは聞かないし、とても憎らしいことを言い始めます。その頃から「抱っこ」の要求も少なくなり、母親としてはちよつと淋しい気持ちにもなるものです。それまでの短い期間、あやしたり、語りかけたりしながら、「抱っこ」して母と子の心地よい肌のふれあいを味わってみてもよいのではないのでしょうか？



村上 里絵先生
むらかみ りえ

- 1985年 日本保育学会会員
- 1995年3月 福岡教育大学大学院教育学研究科学校教育専攻 修士課程修了(教育学修士)
- 1995年9月 近畿大学九州短期大学通信教育部 非常勤講師
- 1998年4月 麻生医療福祉専門学校 非常勤講師
- 1999年4月 北九州市保育所連盟保育士会「応答的保育研修」指導講師
- 2001年4月 光沢寺中井幼稚園 副園長
光沢寺保育園子育て支援センター アドバイザー
- 2002年9月 福岡県立大学 非常勤講師
- 2003年5月 北九州市社会福祉研修所「乳幼児保育講座」「中堅研修」指導講師
- 2005年4月 西南女学院大学短期大学部 非常勤講師